山﨑区長新春対談

バスケットボール女子日本代表 吉田亜沙美選手を迎えて

（東陽小学校卒業）

▲身長の高い選手を相手に、果敢にゴールを狙う

▲オリンピックでは、アシストランキングで１位に（写真：フォート・キシモト）

▲東陽小学校から贈られた吉田選手への寄せ書きフラッグを前に対談（左は司会の野中智子さん）

吉田　亜沙美（よしだ　あさみ）　選手

1987年江東区生まれ。東陽小学校2年の時に「東陽ミニバス」でバスケットボールを始める。東京成徳大学高等学校に進学後は、インターハイ優勝をはじめ、数々の大会で好成績を残し、高校3年生で日本代表に選出。

昨年夏のリオデジャネイロオリンピックでは、日本代表チームのキャプテンとして8位入賞に貢献し、大会のアシストランキング1位に輝いた。

現在は日本女子バスケットボールのトップリーグ、WリーグのJX-ENEOSサンフラワーズに所属し、チームのキャプテン、アジア屈指の司令塔として活躍中。

リオデジャネイロオリンピックを振り返って

司会　本日はリオデジャネイロオリンピック・バスケットボール女子日本代表チームのキャプテンである吉田亜沙美さんをお招きしました。あけましておめでとうございます。

吉田　亜沙美（以下吉田）　あけましておめでとうございます。

司会　早速ですが、吉田さんは日本代表チームのキャプテンとしてご活躍されましたが、今振り返って、リオデジャネイロオリンピックはどのような大会でしたか？

吉田　わたし自身、初めてのオリンピックでしたが、とても楽しかったという思いと、チームの目標はメダルへの挑戦だったので、そこに届かなかったという悔しい思いとで複雑な気持ちでした。ですが、一番の印象は楽しかったなということですね。

司会　吉田さんが卒業された東陽小学校の児童たちが書いたこの寄せ書きフラッグを見ると、皆さんが応援していたことが伝わってきますね。

区長　やっぱりオリンピック選手が自分の学校の卒業生だというのは、すごく誇りに感じるはずですよ。江東区民はみんな夢中で吉田さんを応援したと思いますね。ところで、上位のトップチームとの差って相当感じるものですか。

吉田　アメリカとも戦いましたが、身体の強さやスピードがはるかに違ったので、日本もそこを目指してやらなきゃいけないなという気持ちになりました。また、チャンピオンチームらしいふるまいや、バスケットから離れても一人ひとりが相手選手を尊敬していることがすごく感じられたので、日本も見習わなければいけないと思いました。

10年越しで悲願のオリンピック出場

区長　オリンピックへの出場が決まったときはどんな気持ちでしたか？

吉田　本当にうれしかったです。わたしが日本代表に入ってから、オリンピック出場まで10年かかりました。それまで、北京もロンドンも、最後の最後でだめだったので。

司会　やはりオリンピックの舞台は、ほかの大会と違うものですか？

吉田　今まで経験した大会の中でも、緊張感、モチベーションが全然違って、本当に最高の舞台でした。

区長　オリンピックの開会式で、メインスタジアムにみんなが入って行く感じはどうでしたか？

吉田　入場する前から興奮して、鳥肌が立ちました。スタジアムに入った時もたくさんの観客がいる中で、日本のフラッグが見えたときは感動しましたし、現地まで応援に来てくれたファンの方もいて、すごく心強く、それが一番うれしかったです。

出会いは小学2年生 父が東陽ミニバスを創立

司会　バスケットボールを始めたきっかけは何だったのでしょうか？

吉田　両親が元々バスケットをやっていて、3つ上の姉も始めていたので、バスケットをやる環境でしかなかったんです。

区長　お姉さんの後を追って始めたんですね。

吉田　父が東陽小でミニバスのチームを作ってくれて、そこに入ったのが2年生の時です。

司会　当時の思い出は何ありますか？

吉田　父に教えてもらっていたので、すごく楽しかったのを覚えています。練習も楽しかったし、バスケットというスポーツの楽しさも教えてもらいました。

区長　お父さん、自分の娘には厳しかったんじゃないですか？

吉田　あまりその記憶はなく、楽しかったっていう思い出しかないですね。

区長　バスケットの醍醐味はどういったところですか？やっぱりシュートを決めた時？

吉田　わたしはシュートするよりパスを回すポジションなので、自分のパスで誰かがシュートを決めた時ですね。

区長　吉田さんのプレーはすごく落ち着いているように見えますが、キャプテンとして全部の選手に目配りしているんですか？

吉田　そうですね。わたしはポイントガードというゲームを組み立てる役割で、内心すごく緊張してドキドキはしているんですが、プレーが始まると、試合の流れを見て、どの選手にパスを配るべきなのか、どの選手に得点させるのがいいのかを判断しなければいけないんです。日本代表として、いろいろ経験した10年が今回のオリンピックに生きたんじゃないかなと思います。

引退を考える大けがを乗り越えて

区長　オリンピックに出るまでに大けがをしたり、つらいこともいっぱいあったと思いますが、しばらく試合に出られなかった時はどんな気持ちでしたか？

吉田　最初は、けがをしたことを受け止められませんでしたが、1日でも早く復帰したいという気持ちに切り替わってからは、モチベーションを高く持っていました。リハビリもすごく大変で苦しかったのですが、チームメイトやたくさんの方に支えられて、今の自分がいると思っています。けがをしてよかったとは思わないですが、いい経験ができたなと思っています。

区長　そのときにバスケット選手として終わりだなって思いましたか？

吉田　思いましたね。最初、けがをした時は引退も考えました。

区長　スポーツ選手はどんな競技でもけがが付き物ですよね。そこから再起するのは大変なことで、よほどの精神力がないと乗り越えられないと思います。つらいリハビリを乗り越えて、オリンピック代表が決まった時はどんな気持ちでしたか？

吉田　うれしかったですね。けがをしたこともあって、それが最高のご褒美になったなと。

司会　キャプテンを務められたことについてはいかがですか？

吉田　わたし自身、何か変わるきっかけを作りたかったので、キャプテンを務めて、自分なりに考え方を変えた部分もありました。それまでは自分のことで精いっぱいでしたが、チームのことを一番に考えてやらなければいけないという責任感、自覚を強く感じるようになり、キャプテンを任されてよかったなと思っています。

司会　江東区や日本からの声が実際に届くのは難しかったと思いますが、期待などは感じていましたか？

吉田　オリンピックに行く前の壮行会で、この応援フラッグも拝見しましたが、これだけ応援していただいているとは思ってもみなかったので、うれしくもあり、びっくりもしました。日本のために戦えることが、どれだけすばらしいことなのかを改めて感じましたね。

スピードあるプレーでベスト8に輝く

司会　世界のチームは背が大きくて、平均身長が170㎝台だったのは日本だけでしたが、その中で、他の国とどこが違ったというのはありますか？

吉田　身長はどうしても勝てないので、足を使ったスピードのあるバスケが日本の強みでした。そこを生かせたのが今回ベスト8まで行けた要因だったと思います。アップテンポの展開に持っていける日本のバスケットは、今回のオリンピックで小さいチームでもこれだけ世界と戦っていけるということを証明できたと思います。また、日本にも大きい選手はいますが、わたしも含め、全選手が走れるというのが、日本の強みになったんじゃないかなと思います。

区長　身長差を打ち破るには違う特徴が必要で、それがスピードだったんですね。練習では相当走っているんですか？

吉田　走り込みの練習もしましたし、40分間の試合時間を走り切れるスタミナをつけました。あとはパワーに負けない体づくりも合宿の中でずっと取り組んできたことだったので、それが結果として残せたのはよかったなと思います。

区長　バスケットの場合は、急に止まって戻ったりするのが見ていてすごいなと関心しますよ。

バスケットボール選手として感動と勇気を与える

司会　予選リーグ2勝2敗で20年ぶりの決勝トーナメント進出。小さな体で大きな選手に立ち向かう姿に勇気をもらった方も多いと思いますが、吉田さんにとって、スポーツの持つ力にはどのようなものがあると感じますか？

吉田　わたしはバスケット選手として、感動や勇気を与えるのが仕事だと思っていて、スポーツを見て何かを感じたり、スポーツをしていてよかったと感じてもらえることが一番幸せです。日本代表として出場することで、たくさんの方に知ってもらえるというのもオリンピックだからこその力だと思いますし、何か心に響くものがあるっていうのを信じているので、スポーツが与えられる力っていうのはすごく強いんじゃないかと思います。

司会　吉田さんが幼少期に与えてもらった影響や、印象に残っている出来事はありますか？

吉田　わたし、小学生の時に初めて父のプレーを見て、「こういう選手になりたい」ってすごく思ったんです。

区長　お父さんが試合をしている姿ですか？

吉田　はい。父のクラブチームの試合を見て、いろんなテクニックを見て、楽しいって一番に感じて、「わたしもそういう選手になりたい。見ていて楽しいって思われる選手になりたい」と思い、そこから父のプレーをマネしました。それが一番印象に残っていますね。

司会　世界を目指しているこどもたちにアドバイスできることは何かありますか？

吉田　夢を持ってほしいなと思いますね。夢や目標を持って、いろんなスポーツに取り組む。スポーツを楽しむということもうまくなるひとつの近道だと思います。わたしもオリンピックに出るのが夢だったので、そういやって夢を自分で見つけて、探していくのが大切なんじゃないかなと思います。

東京大会では笑顔でおもてなしを

司会　たくさんの夢を与えてくれたリオデジャネイロオリンピックも終わり、次はいよいよ東京大会。地元で開催されるオリンピック・パラリンピック、どのようなお気持ちですか？

吉田　現役の時に地元でオリンピックができるということは、なかなかないチャンスなので、楽しみにしていますし、江東区でいろんな競技が行われるというのも、一人のスポーツ選手としてうれしいです。楽しみというか、わくわくしているというか、本当に早く実現してほしいなと思います。

司会　オリンピック会場の雰囲気やボランティアの方に接してみて、江東区の皆さんにどういうことをしてほしいといった希望はありますか？

吉田　ボランティアの方たちは、選手を第一に考えてくださったので、とてもありがたかったです。道案内をはじめ、本当に細かいところまで気をつかっていただいたので、感謝しています。それに笑顔で対応してくれたのが印象に残っています。

区長　笑顔が一番のおもてなしかもしれないですね。3年半後のオリンピックにはどんなことがあっても出てくださいね。

司会　吉田さん、本日はありがとうございました。

吉田　ありがとうございました。

▲スピードで勝る日本のバスケットボール（写真：フォート・キシモト）

教えて　吉田選手

東陽小学校の児童から、吉田選手へ質問が寄せられました。

Q.　今までのバスケットの経験上、一番苦労したことは何ですか？そこから学んだことで、今に生かせていることを教えてください。

A.　けがをした時ですね。リハビリが苦労したというか、精神的にもしんどかったです。普段はチームメイトと一緒に練習しますが、リハビリは1人でやらなきゃいけない中で、改めて仲間の大切さを感じたり、精神的に変われたのが今に生かせていることかな。

Q.　外国の選手はみんな大きくてびっくりしましたが、吉田選手は戦う時、どんな思いで臨みましたか？

A.　わくわくしてました。挑戦しようって気持ちが日本選手の一人ひとりにあって、立ち向かって行こうって気持ちで臨んでました。「それぞれの役割をしっかり果たして、日本のバスケットをしよう」って、全員が思っていましたね。